

ボランティアグループ「HARMONY」

犬や猫がふれあいに一役

福祉施設への巡回訪問で



巡回訪問を受け、猫とのふれあいで心を和ませる園生ら＝みずなぎ学園

入所者ら動物の来訪に心和む

欧米では、治療を受ける入院患者の苦しみを和らげるのに、動物とのふれあいの場をつくる「動物介在療

法」が有効とされ、一般の病院でも普及しているという。この療法に関心を持つ元市民病院の医師の呼びかけで、動物を通して人の輪を広げようと、市内などの獣医師や病院職員、犬の訓練士、主婦といった犬好きの人たちが二年前、「HARMONY」を結成した。

結成当初は、外国での動物を使った訪問看護の実態を勉強したり、市内の福祉施設の様子を調べた。その後、実際に老人ホームに入所するお年寄りや知的障害の人らに動物とふれあってもらおうと、昨年五月から

特別養護老人ホーム「寿荘」を二カ月に一度、精神薄弱者授産施設「みずなぎ学園」には二カ月に一度、犬と猫を連れ訪問を続けている。

六日はみずなぎ学園への巡回日。メンバー十人が猫一匹とシベリアンハスキーやダックスフンドなどの犬九頭と一緒に訪れた。園生らはふだん動物に接することが少ないとあって、猫を取り囲み順番に抱いたり、犬を散歩に連れていったりと、リラックスした時間を過ごした。「はじめ犬を怖がっていた園生もいまは怖が、いまではすっかりなれ、訪問を楽しみにしているようです」と同園の職員。

平野さんは「自閉症や痴ほう症の人たちから笑顔や声が出るという反応があったと聞きます。これからの訪問を積み重ねていきたい」と話している。